

和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 京都府 】

学校名【 京都府立中丹支援学校 】

<スポーツ庁テーマ>

1 実践テーマ	【 Ⅲ V 】
2 実施対象者	P T A（児童生徒含む） 50名 中丹支援学校小学部1～6年生（一部） 24名 福知山市立遷喬小学校2年生（一部） 32名 中丹支援学校中学部1～3年生（全員） 40名 福知山高等学校附属中学校1年生（全員） 40名
3 展開の形式	（1）学校における活動 ① 教科名（ 体育科、特別活動、総合的な学習の時間 ） ② 行事名（ 交流及び共同学習 ） ③ その他（ P T A地域行事 ） （2）地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目 標 （ねらい）	パラリンピック正式種目であるボッチャやその他のスポーツ活動を通して、児童生徒がスポーツに関わりをもとうとする気運を高めるとともに、自己肯定感のさらなる向上につなげる。
5 取組内容	（1）P T A地域行事 P T A地域担当者が主催する地域行事において、パラリンピック正式競技のボッチャを取り入れ、地域の保護者並びに小学部から高等部の児童生徒の交流を図った。 <福知山地域行事> 令和2年7月19日 <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> （2）交流及び共同学習 小学部では、長年交流を続けていた小学校の統合に伴い、統合先の福知山市立遷喬小学校2年生との交流及び共同学習を新たに

立ち上げ、学級ごとに実態に応じた活動をする交流を行った。
 その活動の中に、障害者スポーツであるボッチャ等も取り入れ、一緒に楽しむことでお互いの理解を深められるようにした。
 中学部では、福知山高等学校附属中学校との交流及び共同学習において、「中丹パラリンピック」と題して、ボッチャや卓球バレー、フライングディスク競技（アキュラシー）などの障害者スポーツを一緒にする交流を行った。
 障害者スポーツを中心とした活動と一緒にすることを通して、お互いの理解を深めるとともに、オリンピック・パラリンピック等への興味・関心やスポーツを楽しむ態度を高めた。
 高等部では、近隣の府立学校五校との交流及び共同学習で、ボッチャや卓球バレー等の障害者スポーツを一緒にやり交流する予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため取組を中止とした。

〈遷喬小学校との交流及び共同学習〉 令和2年11月10日



〈附属中学校との交流及び共同学習〉 令和2年11月13日



6 主な成果

交流校への用具の貸し出しや交流校での種目表示の作成など、交流校での事前学習を充実させることで、本校児童生徒への働きかけを活発にしたり、対等な関係で競技をしようとする態度を引き出したりすることができた。

本校では、年間指導計画の中に障害者スポーツに取り組む時間を位置付けて継続的に経験する機会を設けることで、自信をもって活動に取り組むことができ、活動への主体的な態度や相手と対等に関わる態度等につなげることができた。

<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>附属中学校にボッチャ等の用具を貸し出して、初めて経験する附属中学校生徒が交流の見通しをもてるようにしたり、附属中学校生徒が作成した種目ごとの表示を掲示して、会場の雰囲気盛り上げるようにしたりして、交流の充実を図った。 ランプや八角マットを活用して障害特性に合わせた活動ができるようにするなど、実態に応じたルールを設定して、誰もが自信をもって活動に取り組めるようにした。</p>
<p>8主な課題等</p>	<p>交流会場への移動に伴う費用を工面することが課題となる。</p>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<p>障害者スポーツを取り入れた活動や交流及び共同学習を年間指導計画に組み込み、事前指導や事後指導も含めた単元全体としてねらいを明確にした取組となるよう学習内容を見直し、取組を充実させていく。</p>